

# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Wプロジェクト(仮称)新築工事	階数	地上3F
建設地	京都府木津川市、精華町	構造	PCaPC造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	30人
地域区分	S地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2017年10月31日
敷地面積	18,458㎡	作成者	高木
建築面積	3,492㎡	確認日	2017年10月31日
延床面積	9,176㎡	確認者	益岡伸治

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 100%

② 建築物の取組み 88%

③ 上記②以外の 87%

④ 上記+ 87%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

### LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	災害に強く、高いセキュリティを持たせ、エネルギー効率の高いデータセンタを構築	
その他	特になし	
Q1 室内環境	断熱: ペアガラス、壁に断熱材	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	信頼性: 個別熱源を採用しているため、非常時も系統別に選択して運転が可能。非常用発電設備・無停電電源設備・重要設備系の受電設備の二重化を行っている。配管支持は耐震Aクラスとする。通信手段の多様化を行っている。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	周辺への景観に配慮した外装や緑化を計画	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	設備システムの高効率化: インバーターエアコン、LED照明器具の採用によりBEI値を低減。効率的運用、モニタリング: BEMS設備による使用エネルギーの計測。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	節水: 節水型便器の採用。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	地球温暖化への配慮: インバーターエアコン、LED照明器具等の採用によりBEI値を低減。光害への配慮: 広告物照明を行っていない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される